

—第11号—

編集：立命館大学化学科同窓会事務局
編集責任者：香山 彰朗
〒603 京都市北区等持院北町56-1
立命館大学化学科内
TEL. 075-465-1111
(内3645)

立命館大学



化学科同窓会ニュース

定年退職にあたって



高橋玲爾先生

おかげですっかり働き人間になってしまったのでしょうか、退職後の静けさの中であってはやや半減、おぼろげなものでして何やら落着かない気分毎日をすごしているような有様です。

衣笠一帯は、旧制京都第三中学校(現、山城高等学校の前身)出身の私にとつては、少年時代からのなじみの土地です。山頂は兜狩りの特伏せに、麓の林は教練の舞台に、谷筋の小径はシミチヨウの採葉にと、時を忘れて駆け回った所です。その衣笠キャンパスに奉職することになったのは、先年北海道で亡くなった神原富民先生のおさそい、がきっかけでした。ポラログラフイーの研究をやらう、そのひとつのセンターにしようということでしたが、もちろんそうとだけは行かずに残された分析化学研究室の名残は、私にとつてはとても大きい重すぎる程のものでした。

私の手元には、昭和三十六年冬頃に撮影された化学科教室会の先生方九人の写真があります。そのうちおふたりはすでに故人であり、他はすべて定年退職されています。その最後が私です。この写真のすぐ後に着任された三人の先生方も、すでに定年退職されました。折しも立命館大学理工学部自身が拡充移転事業によって草津に移り、衣笠の地からは去ることになっていきます。このように見ると、今年こそ衣笠化

吹く風のさわやかさが、ようやく秋を感じさせるようになりました。長雨の冷夏をやりすごして、同窓会の皆様方ますますご健勝のことと存じます。私こと、この三月末をもって立命館大学定年退職の日を迎え、思い出深い化学科と衣笠キャンパスに一応のお別れをいたしました。その節には、同窓会長の懇切なご挨拶とともに、心あたたまる記念の品々を頂戴し深く感謝いたしております。残る人生はげげと用いさせていただくつもりです。思えば昭和三十六年四月奉職以来、満三十三年の衣笠キャンパス生活はそのほとんどが理工学部の生長と、驚くべき充実ぶりのうちに過ぎ去ったようで、私にとってのこの半生はまさに記録的、匆忙しさと厳しさを連続でした。

学科が、生長充実の活動を完つして、その暮を閉じるとき。— そのような思いがてなりませぬ。

もちろん理工学部も化学科も、来年四月には、恐らく見ちがえるばかりの偉容と充実ぶりをもって琵琶湖キャンパスにふたたび生まれ出るはずですが、計画によれば、まるで独立した理工系単科大学ほどの規模をもつたすばらしい理工学部となります。



着任当時、故神原先生とともに

い理工学部のようです。衣笠で充分に体力をつけたチヨウの幼虫が、一挙に壮麗な成虫に脱皮するのにも似た快挙といえるでしょう。しかし、私などとして同窓生の多くの方々など、その壮年時代あるいはその青春時代を衣笠キャンパスにあって苦楽をともにして来た者達にとつては、衣笠のアオムシケムシが、また堪えがたい親しみと懐しみをもって、いつまでも思い出されるのではないのでしょうか。同窓会がそのような心の支えとして、いつまでもあたたく力強く活躍されることを願つてやみませぬ。

略歴 昭和二十六年三月京都大学農学部農林化学科卒業、昭和二十六年四月立命館大学理工学部助教、昭和二十八年四月同教授、平成五年四月立命館大学名誉教授。この間、理工学研究所長、入試委員会副委員長始め学部・学科の主事・主任等各種役職を歴任された。

高橋玲爾先生を送る言葉

化学科主任

山本善史

(昭和35年卒)



化学科同窓会会員の皆様、ますます

御健勝のこととお慶び申し上げます。

化学科で長年にわたる教育・研究に携わってられました高橋玲爾先生が御定年を迎えられ、今年四月より名譽教授となられましたことを御報告させていただきます。皆様におなじみの多くの先生方が、この数年の間に御定年で化学科を去られ、誠に寂しいこととなりました。考えますと、私も含めて特に昭和の三十、四十、五十年代を通して皆様におなじみの先生は、もうおられないとなったという感がひしひしと致します。しかし、一方では、当時或いはそれ以後も含め、助手をされていました多くの先生方によって新しくお見えになった先生方によって、立派に化学科の伝統を受け継がれています。ことは、心強く感じる次第です。

高橋玲爾先生は昭和三十六年にお見えになり、理工学部主事、理工学研究所長を始めとする多くの要職を歴任され、理工学部・立命館大学のためにも御尽力下さいましたことは、皆様方の御承知の通りでございます。去る一月十六日に末川記念館におきまして、高橋玲爾先生の退職記念講演を開催させていただきました。当日集まりました多数の聴講者を前に、退職されること信じられない程気力に満ちあふれた講演をされ、惜しまれつて記念講演を終えました。化学科および先生代表より花束の贈呈があり、最後に教授ご自身が、学生諸君への期待と激励を述べられると会場は大きな拍手に包まれました。

この数年間の立命館大学の発展は、目を見るものがあります。これも皆様方同窓会会員のお陰であることは言うまでもありません。とりわけ理工学部におきましては、本年末から来年にかけて、全理工学部の「びわこ草津キャンパス」への一大飛躍・拡大大移転が目前にせまっています。また本化学科は、「応用化学系」として従来の「化学科」の刷新と「生物工学科」の新設という、二学科編成による新キャンパスでのスタートが計画されています。学部生四、〇〇〇人と院生一、〇〇〇人の五、〇〇〇人規模の目標に向かっ

て、現在教員と学生の整備が着々と進みつつあります。どうか同窓会会員の皆様方の更にも一層の御支援と深い御理解をお願い申し上げます。最後に、高橋玲爾先生、今までも増して御健康でおられるとともに、本応用化学系が一般社会からより一層高評価を得るためにも、後輩へ御指導・御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

高橋玲爾先生を送ることは



化学科同窓会の皆様、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。高橋先生は昭和三十六年四月に助教として就任され、昭和三十八年に教授に昇任されました。理工学研究所長、理工学部主事、大学協賛所長などの要職を歴任され、本学の発展に多大の貢献をなされました。又、先生は日本農芸化学会、日本分析化学会、日本ポラログラフ学会で活躍されました。高橋先生は昭和三十六年分析化学研究室に着任された時は、故榊原先生とのコンビでポラログラフを我々に教

て頂きました。非水溶液(確かオキシンの分析だったと思います)のポラログラフで、極大波のインヒビターを探しに林先生の研究室に一緒に行った記憶があります。これこそ、今思えば会社というOJTであり、学び方の教育だったと思えます。ともすれば一教に先生とは近づくにくく、おっかな存在と思っていました。若い時代に一つの新しい印象を感じました。当初考えていた分析化学は定性・定量分析と思っていたものの、学問の中に理論式・実験式(数式で整理する)を学ん

だことは、卒業後の私の企業生活に大きく物の考え方を変えるものとなりました。又、当時、統計的な考えは現在ほどには活用されていませんでした。しかし当時時はタイプライター計算機で分数・偏差等を学んだことも、固有技術と共通技術の考え方が既にあつたことを示しています。科学・化学の基礎が分析であることは今でもそう思っています。そして、若い時代に良い先生に恵まれ学んだことが私の誇りであり幸いだっと思います。卒業後は就職のこと、技術的な相談にも快くのつて頂き、いつても明るく気持ちよく迎えて頂きました。

トヨタ車体(株)

小谷 嘉 憲

(昭和37年卒)

先生の人となりは多くの卒業生に影響を与えたと思っています。先生の退職にあたり御功績を讃えますとともに、多年にわたる数多くの卒業生へのご指導、学園発展への御尽力をこころから感謝致します。有り難うございました。聞くところにより、来後も御指導をお願い致します。最後に先生のご健康と今後の御活躍をお祈りと共に、化学科のますますの御発展を期待しています。

だことは、卒業後の私の企業生活に大きく物の考え方を変えるものとなりました。又、当時、統計的な考えは現在ほどには活用されていませんでした。しかし当時時はタイプライター計算機で分数・偏差等を学んだことも、固有技術と共通技術の考え方が既にあつたことを示しています。科学・化学の基礎が分析であることは今でもそう思っています。そして、若い時代に良い先生に恵まれ学んだことが私の誇りであり幸いだっと思います。卒業後は就職のこと、技術的な相談にも快くのつて頂き、いつても明るく気持ちよく迎えて頂きました。



化学科

紹介

PART 1

新任教員紹介

〈会員へのひと言〉

いよいよびわこ・きつキャンパス(仮称)への移転が目前にた、あわただしくなつてまいりました。本年度も、高橋玲爾先生の御定年退職と入れ替りに、三名の先生方をお迎えし、移転・新学科設置の準備を着々と進めております。以下に新任の先生の御紹介「Part 1」と今年度の化学科の研究室の紹介をさせていただきます。

科学技術セミナー

企業経営を狂わせる知的所有権



元・榎神戸製鋼所 技術法務部長

龍野正行

(昭和34年生)

金を米国特許権侵害の代償として、日本の大手カメラメーカーM社が米国の日社に支払うというすさまじい事件が起こったのはつい最近のニュースである。M社が国内で製作して米国市場で販売して来たオートフォーカスカメラのA.F機構が日社の米国特許を侵害するのと日社が主張する米国での特許侵害訴訟でM社が敗訴したのである。M社はその結果、赤字を計上したばかりか、経営トップも交代し、文字どおり経営は根柢からくつがえされることになる。

技術をめぐる知的所有権紛争は、とりわけメーカーにとって製品の製造・販売に重大な経営上の影響をおよぼす。権利を主張する企業と受け手に立たされる企業がそれぞれどのようにして経営面の利益をまもって行くのか、三つの実際を経験した例を紹介する。

(1)客先からの引合いに応じて二・三社が商談を進めている過程で、米国企業が、競合する日本企業に対して、米国特許侵害の民事訴訟を連邦地裁に提起し、商談を有利にしようとしたが、15

の競争関係というところがあり、これこそ事件のキーワードといえる。(3)のケースは、大手数社が構成する一つの業界内の争いで、似たような製品を各社で供給し合っている状況で、シェア拡大という営業戦略の中で特許が武器にされた事件である。

* * *

元・榎神戸製鋼所 技術法務部長

知的所有権紛争は法律事件だが実質は企業経営面のトラブルである。特許やノウハウは企業の重要な経営資源であり、利益のためにどうこれらを生かすが、トラブルにどう解決処理するか、企業経営の利益を左右する問題といえる。まとめると、

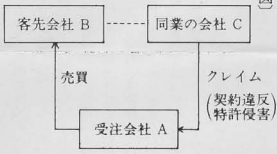
知的所有権を確保する立場

(1)技術を企業の特許で専断して知的所有権として法的に保護する政策を社内で徹底させることが重要。この方策はトラブルの予防に有効なばかりか、ときには競争相手を攻める武器としての法的な権利となる。

トラブル解決の基本パターン

攻守いずれの立場にしろトラブルが現実のものとなる場合、①訴訟を覚悟して徹底的な争う方法と、②話し合いによる平和的解決とに経営方針が大別される。①は攻守双方によって大きな経営的リスクをとまなう。②の平和的解決は前向きに考えるほど多くの選択枝があり、現実的処理として好ましいが、判断と見通しを誤ると、とり返しのつかない経営損失をもたらす。いずれにせよ、企業経営を狂わせる知的所有権の本質がみえる。

(付図)



【参考】新しい知的所有権動向

●特許 年間30万件を超える且は世界の特許大国 物質特許、遺伝子工学からソフトにいたるまで特許がカバーする領域は拡大の一方、●実用新案 世界との調和をはかるとともに、近々特許庁による審査手続を廃止して制度の簡略化を進める見通し。

●著作権 コンピュータープログラム

はすでに権利対象に追加され、そのリパースエンジニアリングの取り扱いが次の問題となっている。●商標 商品ブランドが本年保護されたものの登録して保護されるようになった(たとえば、運輸、金融機関等)。

●トレードシークレット 契約による保護を超えて、不正競争防止法を改正し、企業の保有する経営上の秘密情報、たとえば、ノウハウ、顧客名簿等を積極的に保護できるようになった。



民秋 均

本年四月より新設の生物有機化学担当として赴任いたしました民秋(たみあき)と申します。様々な有機化学的手法を用いて、生体機能：特に、光のかかわる現象(光合成など)：を分子レベルで解明するという研究をメインテーマとしております。来年生物学学科が新設されますと、新学科へ移籍する予定であり、新キャンパス移転に伴い設備も一新されますので、世界のトップレベルの研究を行なっていきたいと考えています。同窓会の皆様のもとで、有機化学に関して何か問題が生じましたら、何なりと御相談いただければ幸いです。谷利教授(天然物有機化学担当、生物工学科移籍予定)とグループを組んで、学生・院生の研究・教育を行なっている所存ですので、弱輩ではございますが、御指導御鞭撻の程よろしくお願ひ致します。

略歴 一九八一年京都大学理学部卒業 一九八六年同大学院理学部卒業 博士後課程修了、同大学院理学部研究員(日本学術振興会特別研究員) 一九八七年同学部化学教室助手 一九九三年四月本学に着任、理学博士。

生物資源化学のすすめ



化学科教授

立木 隆

一、はじめに

—技術と資源—

化学に携わる人はもちろんのこと、世の中全体が、新しい材料(新素材)やそれを作る技術の開発に、いつも注目している。

新素材は、目的の性能を持たない(または劣った性能の)原料から作られる、珍しい新しいものを作る、ということである。「原料」↓「新素材」↓

「製品」というような単純な図式でも表せるだろう。そして、「製品」の価値を主な基準にして、「新素材」とその製法が評価される。しかも、時には「ありふれた原料」のことや、できたものの行末については、「経済効果」の立場からはともかくとして「配慮」されないことが多い。地球規模では、ほとんど原料が有限で、やがて手に入れることも困難になるといっても、まわりへの影響、あとの始末のことな

境の維持・改善などの複合的な観点から、この中に含める。

(b)生体物質・生物を作っている分子は多種多様だが、無系統に多種多様なのではない。全生物に共通な、比較的限られた数の基本物質から構成されているが、組み立て方のわずかな差によつて性質が異なってくる。

具体的には、糖質・脂質・タンパク質・核酸・ビタミン・二次代謝産物とこれらを作っている基本物質のことで、「原料」として利用できるものも多い。高含量のバイオマスから取り出すのが、生物の物質転換能を利用して、他のものから作ることもある。

(c)特別な機能を持つ生体物質・ある原料に生物が作用させ、その物質転換の力によって、別の製品を作る方法が昔からあった。微生物による「醸造・醸造」がその代表だが、次第に理論的に整理された、多様な生体物質を生産できるようにした。動植物の細胞も、微生物細胞と同じように利用できる。また、物質転換を触媒する酵素の実体が明らかになるにつれて、一段階あるいは多段階反応や、生体内には無い新しい反応を用いて、物質を合成する手法も開発された。化石化合物・合成化合物も原料として使える。

免疫・神経伝達(細胞の)自己認識などの、生体応答現象に関与する生体物質・機能性材料として用いることや、生体物質を遺伝子操作によって改良・設計することが、可能になっている。

三、生物資源の特徴
第一の特徴・利点は、生物によつて

作られ分解される、つまり自然界の物質循環に組み込まれ得る、ということである。生物は大陽エネルギーの効率的な変換・貯蔵システムであり、適正に利用しているかぎり、環境への影響も少ない、再生可能な永続的資源となる。限られた各地域にしかない化石資源とはちがって、各地域で自給できる。

第二はよく言われていることで、生体物質や生体反応の化学的特性によるものである。たとえば、低分子物質が光学異性体で、多くの高分子物質が定序配列性であること、常温・常圧のプロセスの設計が可能であること、などである。汎用物質の大量生産だけでなく、高付加価値物質の少量・多品目生産にも適している。

第三として、新しい材料・反応・プロセスが開発される可能性が高い、と用いることが挙げられる。これは、逆に言えば、我々の生物についての知識が不十分というところであり、生物に対する分子レベルの理解を深めることが、まだまだ必要、ということを意味している。

生物資源の利用を経済的に成り立たせるためには、解決しなければならぬ問題が、それそれ山ほどある。しかし、地球資源の節約や環境の保全のためには、生物資源をできるだけ努力が必要だろう。それを考え、始める時が来ているのではないだろうか。

四、おわりに
—応用化学系生物工学科—
Humanistic Science and Technology

わこ・くさつキャンパスへ)移動する時に、生物工学科が新設される予定である。生物工学科は「化学科」と「応用化学系」を構成し、生物(細胞)の働きや生物(細胞)間の相互作用を、化学的視点にたつて理解し応用すること」を教育・研究することになっている。したがって、教育・研究の基盤は化学である。

ただ、その名前から、「バイオテクノロジー」=「遺伝子工学」だけを指すところ、と短絡的に思いこまれるおそれが、多分にある。バイオテクノロジー」という言葉は、比較的新しいものだが、その中身は、生物に関わりあいの深い科学や技術分野の中にもとあつたもので、特別に新しいものではない。既存の学問分野にとわれない、総合的に生物について考え、応用しようとして、生命科学やバイオテクノロジー」という概念が生まれてきた経緯からすれば、生物工学科が遺伝子工学だけを指すところはない、ということはずぐにわかるはずである。

この過程で化学が果たした役割は大きく、またこれからもう一段階は、生物工学科の教育・研究の基本が化学になるのは、当然である。

大事なことは、何をやるのか、何を目標にするのか、ということである。バイオテクノロジーの、現在の、そして将来の使命を考えることであり、これは、大げさに言えば、倫理や哲学を伴うことになる。

「生物資源化学」も、それらをあらわすものの一つかもしれない。

トビックス

医薬品業界
の
社会的貢献

丸正薬業株式会社 生産部長 榎取 裕 弘

東 正 弘
(昭和41年卒)

医薬品企業で永年に亘り、業界・医療界と接してきました。

我が国経済は、一昨年来の大型不況の中で、急激な円高により多くの企業が減益を余儀なくされていますが、医薬品業界は景気循環に左右されにくい背景により、相対的に堅調な収益を維持しています。しかし、医薬品業界をとり巻く環境が国内外を問わず激しく変化しようとしています。一昨年来進められてきている流通改善や昨年の薬価改正など厳しい環境下により苦境を克服しつつあります。一方、人口の高齢化、医療の高度化に伴う医療費の膨張は、世界共通の問題となり、医療費の抑制と医療制度の改革の必要性が各国で論議されています。

さて、医薬品は医療技術の進歩と共に

に、国民の健康に関与してきました。近年高齢化が進むにつれて、成人病と総称される長期慢性型の疾病の比重が高まっています。これらの疾病の多くは、薬物療法などによってコントロールされ健康な人と変わらない生活を送れるようになってきました。このような医薬品と医療技術の進歩で、疾病の克服、延命、生活の質を向上させ、その社会的利益ははかり知れないものがあります。それもまた同時に医療費の削減など社会的コストを低減するうえでも貢献しています。

日本人の平均寿命はご承知の通り近年世界でも類をみない程伸びてきました。このように長寿社会になった要因は先程述べたように、医薬品の開発と医療技術の進歩が大きな要素ですが、日本の教育水準が高くなり国民の病氣に対する知識が向上したことも見逃すことはできません。

医薬品業界の営業担当者としてのMR (Medical Representative) 医薬情報担当者」と呼び、「医薬品の適正な使用と普及を目的として、医薬品の品質、有効性、安全性などに関する情報の提供、収集、伝達を日常業務として行う者(をい)」と日本製薬工業協会において定義されています。同窓諸兄でMRに従事されている方も多おられますがMRを取り巻く環境も変化してきました。建直し導入による流通改善や新医薬品の再審査の申請のための市販後調査の役割機能がより高度化されるようになり、MRの適正な活動をプロモーションコードに作成し、各社で社内体制を整備することになりました。

このようにMR活動が医療参加型の方向に大きく変化しつつあります。今年にはMR就職希望者も増加してきました。化学専攻者には生かせる業界と思えます。堅苦しい話題提供になりましたが、多くの同窓諸兄の御活躍を祈念して筆を置きます。お読み頂き有難うございました。

PART 2

新任教員
紹介

〈会員へのひと言〉



森 崎 久 雄

本年四月より生物物理化学担当として赴任致しました。十四年ぶりの懐かしい関西です。自然環境中での微生物の生理、生態を、微生物と界面間との相互作用を通じて理解することを研究の目標とし、微生物の吸着力の測定、界面における微生物活性、自然環境から単離された微生物細胞の表面特性などに関し研究してきました。もともと化学出身ですが、微生物を使い初め

てすでに十四年が過ぎ、今では化学、界面科学、微生物学が頭の中で共生しているように感じています。これら各分野の言わば境界領域でユニークな研究を展開できればと願っています。また、来年から自費豊かな琵琶湖畔に移転します。環境面にも理解の深い学生を育てたいと思っています。

同窓会の皆様には今後いろいろお世話になるかと思いますが、よろしくお願ひ申し上げます。

略歴 一九七四年三月大阪大学理学部化学科卒業、一九七六年三月同大学院理学研究科修士課程修了、一九七九年二月同博士課程修了、一九七九年四月東北大学農学研究所(現遺伝生態研究センター)助手、一九九二年四月本学に着任。



大 瀧 仁 志

平成五年三月に岡崎国立共同研究機構分子科学研究所を定年退官し、はからずも立命館大学にお世話になることになりました。このよな関西の名門校に再度の職を得ることができたことは大きな喜びであり、お招きされた関係各位の御厚意に感謝しております。また卒研究生も大学院生もなく、勿論

共同研究者もなく、独りばつちの身の上ですが、びわくよくよく新キャンパスに移れば一人前に忙しくなるだろうこと、今から覚悟だけはしつつかりとしております。

これまで溶液化学という比較的地味な分野におりましたが、最近凝縮系に対する分子論的研究が盛んになってきたため、いさ、か基礎的役割を果してきたかとこれまでの長い道りをふりかえっております。

本学に赴任以上は立命館大学を関西のトップとどこか国際的な一流大学に発展させるべく微力をして、げたいと考えております。

関西弁の中に埋まって暮らすのははじめての経験ですが、狭い日本の中で、しかもわかる言葉の中に居るのですから何と驚くことはない思ひ、相変わらず凶々しく、且つノックと通しています。今後ともどうぞよろしく御交誼のほどお願い申し上げます。

略歴 一九五五年名古屋大学理学部化学科卒業、東京工業大学理学部付属原子炉研究施設助手、スエーデン王立工科大学博士研究員、名古屋大学理学部講師、助教、東京工業大学工学部助教、教授、岡崎国立共同研究機構分子科学研究所教授、同研究所固体化学実験施設長、総合研究大学院大学教授(併任)、同学数物科学研究所科長、一九九三年三月定年退官、東京工業大学名誉教授、理学博士。



合田芳弘
合田化学産業社長
日本化学工業協会理事
第一専務役員
第一専務役員

会員のページ

世界一長い絵巻に挑戦

中山道六〇〇両走
三万六〇〇の絵巻を描く

立命館で学んだことが絵巻を発見

私は昭和三十五年より三十九年迄

衣笠山の麓の理工学部化学科で学んだ

卒論は、立花精先生の生化学教室であ

った。ピタミンB₁₂の研究であった。

この時、これから研究する時、誰もやっ

ていない絵巻に於けるには、現在どんな

研究がなされているか知ることが大切

であり、それは、メルクインデックス

と言う本を調べることが第一である

と教わった。この方法は、画家として、

他の人がやっていない方法で、一生の

テーマを持って描き続けるためにはど

うすればよいかを見つける事の考え方

に通じていた。絵巻は、日本の材料で

あり、町並を描くことは、江戸時代

の浮世絵のように、その時代を描くこ

により、後世にその風俗を残すことの

出来る方法であり、誰もやっていない

分野であった。

中山道の町並を描く魅力

私の住んでいる中山道は、日本橋よ

り敷いで十番目の宿場町で、現在も百

年以上の建物が、数多く残っている古

い町並のある所である。尚、中山道は

中山道と書かず、山を書いて、せん

と読ませるのは、東海道に対して山の

方のだ道ということから名づけられたと

いう。



なぜ街道を描くのか

深谷市は東京から七十キロに位置し、

ここにも都市化の波がはじめ、高層

マンションが建ちはじめ、古い町並は

大きく変貌しようとしており、画家と

して、今、描き残しておかなければ

永久にわからなくなると思い筆を取っ

た。最初は一枚ずつ描いていたが、六

年前に、現在のこの街のふんいきを、

そのまま残す方法はないかと考えた。

これが絵巻であった。それも長がう

い絵巻にすることであった。

一巻二百米の合成紙に夫婦で挑戦

深谷市を通っている中山道の町並八

キロを、建物や木一本一草にのり方で

出来るだけ細密に描くことに方法は

ないかと考え、これぞ、立命館で学ん

だ方法を絵画に応用しようと考えた。

「日本的な発想で、日本的な材料で、

誰もやっていない方法」で描くことに

思いつた。合成紙の長さはつなぎ目

なしの二百メートル、巾五十二センチ

重量は一巻三十キロと重い。一人で描

くのは大変なので、夫婦で一生のテ

マとして取り組むことに決定した。こ

れ迄の道りは長かった。

ライトボリがわがアトリエ!

沿道の風景を切れ目なく、中山道を

歩いて見ているように描くため、ライ

トパンの中に絵巻を持ち込み、一軒ず

つ、家の前に車を止めて反対側の家並

を描く。中山道は道が狭く、市街地は

大変だ。早朝や夜中に描く。商店街は

街燈のおかげである程度明るく、夜九

時頃から朝方までは、描き時で、どうし

ても見えないう時は、サチライトで照

らして描く、車の中に携帯用蛍光灯を

持ち込み、手元を照らす。冬はアンカ

夏は蚊取り線香を付けて虫との戦いだ

合成紙には、下地材を何回も塗り、毛

筆と墨でスケッチし、画材一式を積み

込んだワゴン車がアトリエである。私

が素描をし、妻が着色して行く。二

三脚のスケッチである。一日絵巻して

数メートルがやつとである。

現在の浮世絵をめざして

道行く人の服装や自動車、塀に貼ら

れたポスター等を細密に描いていく、

建物だけでなく、風俗を描き込むこ

によって、浮世絵のように、後世、歴

史に残るに値する絵巻にすることが出

来るのではないかと考えた。



飯沢 匡 先生と絵巻談義

市民に支えられて描く喜び!

六年前に描き始めた頃は、車の中か

ら描くので、写生されている家の主人

に不審がられたり、描く家の反対側に

車を止めて描いたので、自分の家の前

に車を止められた商店主からは文句を言

われたり、駐車違反として警察に注意

されたり大変であった。最近では、市

民の理解も深まり「頑張つて」と声を

年会費等の 納入について

納入について

一、平成五年度の年会費の納
入への協力をお願い

平成五年度年会費(平成六年三月三

十日迄)二千元を納入下さいますよ

うお願い申し上げます。

年会費は、会運営の柱です。全会員

の皆様が完結下さいますようお願い申

し上げます。

送金には、同封の振替用紙をご利用

下さい。なお、領収証は、郵便局の発

行する受領証をもって代えさせていただきます。

(注)平成五年三月卒の一

部の会員は、平成五年度分の会費を納

入済です。

二、会員名簿(第三号)の発

行と販売のお知らせ

昨年六月に、「化学科同窓会会員名

かけられ、お茶を差し入れてくれたり

して描く喜びが出た。

これからの予定

深谷市から四、五年後の日本橋をめ

ざし、現在鴻巣市で描いている。さら

に京都迄の中山道六百キロを三万メ

ートルの絵巻にこれから三十年かけて描

く予定である。夢は大きく、一生の仕

事である。(東京立命館より許可転載)

薄(第三号)を発行致しました。本版

には、平成四年三月までの卒業生の氏

名、現住所、勤務先及びTELが記載

されています。

名簿代は、一冊二千元です。多数の

方々が購入下さいますようお願い申し

上げます。送金には、同封の振替用紙

をご利用下さい。

(郵送希望の方は、別途五百円を送金

下さい。)

三、寄付金募金についてのお

願い

会運営を円滑に行うために、運営資

金の一部として、寄付金を募っており

ます。寄付金は、一口二千元として何

口でも承っております。ご送金の際は、

会費納入振替用紙をご利用下さい。

四、事務局への連絡について

会員の住所変更、会費納入、寄付等

についてのお問い合わせは、ハガキま

たは電話でご連絡下さい。

事務局の電話は、

(TEL)〇七五-四六五-二二一

内線三三四五

(FAX)〇七五-四六五-一八三七

研究室の構成及び卒業研究テーマ

研究室名	スタッフ	1993年度卒業研究テーマ
物理化学Ⅰ研究室	理博 北村 清教授	選択性透過膜、単分子膜および累積膜
物理化学Ⅱ研究室	工博 谷口吉弘教授	生体高分子溶液の構造・反応・物性
物理化学Ⅲ研究室	工博 澤村精治助教授	液体・溶液の高圧物理化学
工業物理化学研究室	工博 山本善史教授	燃料電池、各種化学電池、固体電解質、固体イオニクス
無機化学Ⅰ研究室	理博 大藪仁志教授	溶液化学、錯体化学、溶液の構造化学と反応論、分子動力学シミュレーション
無機化学Ⅱ研究室	理博 小島一男助教授	結晶、非結晶、錯体およびセラミックスの構造と物性
無機材料化学研究室	工博 金子泰成助教授	粉体の成形、スパーク法による窒化物合成、リン酸カルシウム系化合物合成、粉体のメカノケミストリー
分析化学研究室	理博 松田十四夫助教授 白石晴樹助手	電気分析、分離分析、環境分析、有機電気分析化学
有機化学研究室	工博 中村尚武教授	直鎖長鎖化合物、液晶、液晶関連物質の構造、物性
有機反応化学研究室	理博 林 隆俊教授 工博 岡田 豊助手	フェロセン誘導体の合成・構造・反応、クライゼン転位反応
天然物有機化学研究室	理博 谷利陸平教授	不斉合成、有機硫黄化合物の合成反応
生物化学Ⅰ研究室	農博 深海 浩教授	化学生態学
生物化学Ⅱ研究室	農博 立木 隆教授 塩出十一助手	有用酵母の遺伝育種、微生物による有用物質の生産
生物物理化学研究室	理博 森崎久雄助教授	微生物細胞の表面物性の解析および微生物-界面間相互作用の解明
生物有機化学研究室	理博 民秋 均助教授	生体機能の分子レベルでの解明

「理工学部衣笠学舎さよならの集い」の予告

すでに、新聞、テレビなどでご承知のように立命館大学理工学部は、来春4月「びわこ・くさつキャンパス(仮称)」に拡充移転致します。

それに先立ち同窓生の皆様への思い出多き衣笠学舎での「さよなら式典」が下記の通り計画されています。同日午前中の各学科別企画では化学科同窓会としての企画を計画中です。同窓生の皆様お誘いあわせの上、御参加いただきますようご案内申し上げます。

開催日時：1993年11月23日(祝日)

10:00～12:00 各学科別企画 (化学科同窓会企画準備中、詳細は後日化学科同窓会より御案内致します)

13:00～14:00 全体企画「さよなら式典」

記念講演 大南正球総長

「理工学部発展の足跡と新キャンパスでの展望」

終了後、バスにて新キャンパスを見学し、懇親会場へ。

17:30～19:30 懇親会 草津エストピアホテル(JR草津駅西口下車徒歩3分)

参加費：本人6,000円(記念品、バス、懇親会費) 同伴者の参加も歓迎(一人4,000円) 全体の申込方法等詳細は10月下旬発行の校友会紙「きぬがさ」でお知らせされる予定です。

平成4年(1992年)度事業報告

- I. 諸事業
- 1) 企業ガイドブック(第3号)の発行 '92・4・20
 - 2) 在校生への企業ガイドブックの配布 4・下旬
 - 3) 全会員への通信(1回目) 5・下旬
(総会の案内、名簿発行の案内、年会費の請求等)
 - 4) 在校生への通信(1回目) 5・下旬
 - 5) 名簿(第3号、全会員掲載版)の発行 6・中旬
 - 6) 第4回総会の開催 6・21
(講演会、懇親会も開催)
 - 7) 平成4年3月卒業生名簿作成 10・20
 - 8) 同窓会ニュース(No10)の発行 10・20
 - 9) 全会員への通信(2回目) 11・上旬
(ニュース、第9回科学技術セミナーの案内、年会費の請求等)
 - 10) 在校生への通信(2回目) 11・中旬
(ニュース、セミナーの案内等)
 - 11) 第9回科学技術セミナー 12・6
 - 12) 定年退職の教員への記念品贈呈 '93・3・6
- II 諸会議
- 1) 幹事会
第1回 '92・6・7
第2回 12・6
 - 2) 事務局会
第1回 6・7
 - 3) 常任幹事会
第1回 11・28
 - 4) 諸会議
a) 同窓会ニュース編集委員会 '92・7・25
b) セミナー等運営委員会 9・26
c) 募金委員会 5・26
d) 大学関係者とOB企業経営者との懇談会 10・24
- III. 在校生(卒研究生・院生)への援助活動
- 1) 研究室対抗ボーリング大会 '92・7・9
 - 2) 卒業・修了記念パーティー '93・3・20

平成4年度決算報告

一般事業会計			
<収入の部>		当初予算額	執行額
繰越金		1,502,134円	1,502,134円
会費		4,215,000*	4,188,000
寄付金		500,000	455,500
企業ガイド掲載料		1,079,588	1,019,176
雑収入		200,000	86,252
合 計		7,496,722*	7,251,062
<支出の部>		当初予算額	執行額
総会開催費		200,000円	195,240円
セミナー等補助費		200,000	97,173
会議費		120,000	60,359
印刷費		850,000*	805,718
企業ガイド作成費		600,000	599,358
郵送費		1,150,000*	1,129,301
人件費		600,000	600,000
事務局費		40,000*	31,607
雑 費		100,000	94,605
拠出金		3,000,000*	2,000,000
在学生の活動援助費		100,000	96,797
振込み料金手数料		100,000*	65,100
子備費		436,722	422,665
次年度繰越金			1,049,499
合 計		7,496,722*	7,251,062
特別事業会計			
<収入の部>		当初予算額	執行額
繰越金		2,665,279円	2,665,279円
拠出金		3,000,000*	2,000,000
名簿売上(一般)		250,000	198,400
名簿売上(学生)		150,000	85,000
名簿荷造送料		450,000*	411,600
名簿広告掲載料		530,000	470,000
雑収入		60,000	45,485
合 計		7,105,279*	5,875,764
<支出の部>		当初予算額	執行額
名簿出版費		2,100,000円	2,008,912円
名簿荷造送料		400,000*	365,487
人件費		700,000	602,232
事務局費		50,000	39,435
子備費		3,855,279*	0
次年度繰越金			2,859,698
合 計		7,105,279*	5,875,764

* '92.12.6幹事会にて変更・新設承認

平成5年(1993年)度事業計画

- I. 諸事業
- 1) 企業ガイドブック(第4号)の発行 '93・4・20
 - 2) 在校生への企業ガイドブックの配布 4・下旬
 - 3) 同窓会ニュース(No11)の発行 8・下旬
 - 4) 平成5年3月卒業生名簿作成 8・下旬
 - 5) 全会員への通信(1回目) 9・中旬
(同窓会ニュース、年会費の請求、新卒者名簿等)
 - 6) 在校生への通信(1回目) 9・中旬
(同窓会ニュース、新卒者名簿等)
 - 9) 全会員への通信(2回目) 11・上旬
(第10回科学技術セミナーの案内、年会費の請求等)
 - 10) 在校生への通信(2回目) 11・中旬
(セミナーの案内等)
 - 11) 第10回科学技術セミナー 11・下旬
- II. 諸会議
- 1) 幹事会
第1回 '93・6・6
第2回 10・
 - 2) 常任幹事会
第1回 6・6
第2回 10・
 - 3) 諸会議
a) 同窓会ニュース編集委員会 必要に応じて年数回
b) セミナー等運営委員会 "
c) 募金委員会 "
- III. 在校生(卒研究生・院生)への援助活動
- 1) 研究室対抗ボーリング大会 '93・7・
 - 2) 卒業・修了記念パーティー '94・3・21

平成5年度予算

一般事業会計		収入の部	支出の部
繰越金		1,054,489円	
会費		2,000,000	
寄付金		500,000	
企業ガイド掲載料		1,000,000	
雑収入		100,000	
合 計		4,654,489	
総会開催費			0円
セミナー等補助費			200,000
会議費			120,000
印刷費			850,000
企業ガイド作成費			500,000
郵送費			1,200,000
人件費			800,000
事務局費			40,000
雑 費			100,000
拠出金			100,000
在学生の活動援助費			100,000
振込み料金手数料			100,000
子備費			544,489
合 計			4,654,489
特別事業会計			
<収入の部>		<支出の部>	
繰越金		2,859,698円	
拠出金			100,000
名簿売上(一般)			100,000
名簿売上(学生)			100,000
名簿荷造送料			25,000
名簿広告掲載料			0
雑収入			60,000
合 計		3,244,698	
名簿出版費			0円
名簿荷造送料			20,000
人件費			500,000
事務局費			50,000
子備費			2,674,698
合 計			3,244,698